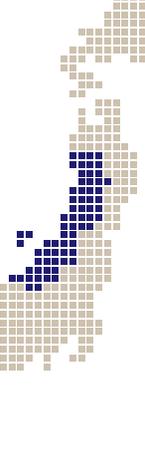


カトリック

新潟教区報



シノドスと教区の

優先課題の刷新に向けて

新潟司教 パウロ 成井 大介



おかげさまで、この9月で司教叙階から1年になります。改めまして、素晴らしい叙階式を準備し、温かく迎えてくださった皆様に感謝申し上げます。叙階式の時に見せてくださった「ウエルカムビデオ」は何回も繰り返し見て、元気をいただいています。

コロナ禍の波は続いています。新潟教区3県は他県と比べて感染者が少なく、緊急事態宣言も一度も出ていませんが、専門家の話では、基本的な感染対策は当分続けなければならぬようです。教会では1年半以上も続く自粛で、典礼を通常通り行うことができなかったり、場合によってはミサに参加できない方もおられます。大変な犠牲ではありませんが、このような時にこそ神がわたしたちと歩みを共にしてくださっていることに信頼し、祈りと協力のうちにこの時を乗り越えて参りましょう。また、教会共同体として、コロナ禍にあってもできること、コロナ禍の後に実行すべきことなど、希望のうちに検討を続けてくださるよう、お願いいたします。

シノドスと教区の優先課題

バチカンのシノドス代表司教会議事務局は5月21日に声明を発表し、2023年10月からバチカンでシノドス第16回通常総会を「ともに歩む教会のため」交わり、参加、そして「宣教」というテーマで開催すると発表しました。シノドスとは通常3年に一度行われる世界代表司教会議で、世界から司教団の代表、修道会総長連盟代表、バチカンの省庁の代表、またテーマに関連して、オブザーバーとして様々な立場の人が参加します。

今回のシノドスの特徴は、「ともに旅する」シノドスだということだと思います。2023年にバチカンで会議に参加する人々だけではなく、信徒、修道者、司祭が教区レベルで自らの経験を振り返ることにより、どのように交わりと、参加と、宣教を實踐していくことができるのかをともに探る「旅」です。このために、今年の10月17日から来年の4月まで、世界中の教区でシノドスのテーマに関連した話し合いが行われ、その報告書が司教団でまとめられることになっていきます。新潟教区においては、シノドスのプロセスを準備するために大瀧浩一神父様をシノドス担当者として任命いたしましたのでご報告いたします。

ところで、新潟教区では教区における宣教司牧の方針についての話し合いが4月に開催された宣教司牧評議会で行われ、2012年の教区優

先課題の振り返りと、新たな課題の検討が進められることになっていました。しかし、10月から始まるシノドスの各教区におけるプロセスと時期が重なることから、混乱を避けるためにもシノドスの振り返りと教区の優先課題の振り返りを一緒に行うこととしました。今後、シノドス文書が和訳されましたら、また新潟教区としてどのようなプロセスを進めていくのかお知らせいたします。

委員会人事

7月に教区の委員会等の人事を発表いたしました。コロナ禍で思うように動けない状況が続きますが、少しずつ活動を進めていっていただけたらと思います。なお、引き続き委員の任命が必要な委員会もありますので、担当者と相談して任命を進めていきます。

今年度より、カリタス委員会と養成委員会が新設されました。カリタスは、これまで行われてきた四旬節献金などに加え、教区内において支援が必要な人々への対応、震災への備えや対応も行うことを検討しています。また養成委員会は教区全体の養成の方向性を検討、提示し、地区や小教区と連携して養成企画を推進する予定です。

新しいミサ式次第と奉献文

7月に行われた臨時司教総会で、この度バチカンの典礼秘跡省により認証された、新しい「ミサの式次第と奉献文」が、来年、2022年11月27日(待降節第1主日)から用いられることが決定されました。その時に向けて、新しい式文の周知や解説などの準備を新潟教区でも進めていくこととなりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

司祭人事

()内はこれまでの任務等
8月10日付

《教区外への転出》

▼元田勝哉師(高田・直江津・糸魚川教会協力司祭)⇨フランスシスコ会

なお、新潟教区正義と平和委員会の委員及び上越カトリック天使幼稚園チャプレンについてもその任を解く。

8月10日付

《チャプレン人事》

▼伊能哲大師⇨フランスシスコ会上越カトリック天使幼稚園チャプレンに任ずる。

訃報

京都教区名誉司教
ライムンド田中健一司教 帰天



2021年7月29日(木) 田中健一名誉司教が、愛媛県宇和島市内の病院で誤嚥性肺炎のため帰天されました。93歳でした。

略歴

1927年8月31日 愛媛県宇和島市にて誕生
1951年12月21日 司祭叙階(高松にて)
1976年9月23日 京都教区司教叙階
1997年6月15日 京都司教引退 京都名誉司教
2021年7月29日 帰天

司教諮問機関 他 2021年7月1日現在

	任期	委員長	委員 / メンバー
司教顧問	5年(2021/03/01~)		眞壁良雄師、大瀧浩一師、石黒晃泰師、新立大輔師、スリ・ワルヨ師、伊能哲大師
地区長			プラフル・クジュール師(秋田地区)、スリ・ワルヨ師(山形地区)、石黒晃泰師(新発田地区)、坂本耕太郎師(新潟地区)、伊藤幸史師(長岡地区)
司祭評議会	2年(2021/03/01~ 2023春の評議会迄)		〈職務上〉眞壁良雄師、プラフル・クジュール師、スリ・ワルヨ師、石黒晃泰師、坂本耕太郎師(書記)、伊藤幸史師 〈司教による任命〉佐藤允広師、新立大輔師、大瀧浩一師(事務局) 〈地区選出〉フレデリック・ラウリシオ師、楊 成源師、田中丈夫師、ラウル・バラデス師、伊能哲大師
宣教司牧評議会	2年(2021/04/01~ 2023/03/31)		〈職務上〉眞壁良雄師、大瀧浩一師、プラフル・クジュール師、スリ・ワルヨ師、石黒晃泰師、坂本耕太郎師、伊藤幸史師 〈地区選出〉秋 田：藤本文雄氏、石崎利巳氏 山 形：小林雅人氏、佐藤充子氏 新発田：本田祐二氏、樋口 智氏 新 潟：冷水賢明氏、三崎 彬氏 長 岡：平石俊夫氏、赤木啓子氏 〈女子奉獻生活者〉秋保 望氏、吉田彰子氏、門戸美智氏、熊谷みわ子氏、星野俊子氏、酒井裕子氏 〈司教による任命〉橋依理子氏、阿部ジュリア氏、チャン・ティ・トゥイ・レイ氏
経済問題諮問委員会	2年(2021/07/01~ 2023/06/30)	大瀧浩一師	眞壁良雄師、石崎友也氏(土崎)、柴田 博氏(山形)、中村 茂氏(青山)、吉田 剛氏(長岡)、渡辺明紀氏(新発田)
建設・共済委員会	3年(2021/07/01~ 2024/06/30迄)	大瀧浩一師	石黒晃泰師、田中丈夫師、細矢 了氏(土崎・地区推薦)、小林雅人氏(山形・地区推薦)、中林 務氏(新津・地区推薦)、佐藤仁人氏(青山・地区推薦)、本山咲子氏(糸魚川・地区推薦)、三木順治氏(新潟・司教による選任)、中村 茂氏(青山・司教による選任、事務局担当)

新潟教区 各委員会・担当者 2021年8月10日現在

委員会	委員長/代表者	委員 / メンバー
難民移住移動者委員会	田中丈夫師	ホセ・ルイス・ロレンゾ師、トゥ・ダン・フック師
広報委員会	ラウル・バラデス師	大瀧浩一師、グエン・タン・ヒ師、岩城忠秀氏(教区報担当・新潟)
青少年委員会	伊藤幸史師	坂本耕太郎師
正義と平和委員会	佐藤 勤師	
カリタス委員会(新設)	町田 正師	大瀧浩一師、野村みか氏(新潟)
養成委員会(新設)	大瀧浩一師	ラウル・バラデス師、スリ・ワルヨ師、坂口 淳氏(新潟)
ハラスメント対応委員会	大瀧浩一師	堂前洋一郎氏(青山)、運上司子氏(寺尾)、中村洋子氏(青山)、三崎恵子氏(新潟)
新潟ハバロフスク信徒交流会	町田 正師	ラウル・バラデス師

担当

典礼担当	高橋 学師	
神学生養成担当者	大瀧浩一師	伊藤幸史師
召命担当者	坂本耕太郎師	伊藤幸史師
部落差別人権委員会教区担当者	佐藤 勤師	
教区信徒使徒職協議会担当司祭	坂本耕太郎師	
カトリック医師会	伊藤幸史師	
カトリック看護協会	眞壁良雄師	
カトリック幼保連盟	佐藤允広師	
教区シノドス担当者	大瀧浩一師	

ひとりでお悩まずわたしたちにご相談ください
カトリック新潟教区セクシャル・ハラスメント相談窓口
 司祭・修道者による未成年者性虐待とセクシャル・ハラスメント
 についての窓口です

受付 毎週火曜日 13時~14時(除く祝祭日)
 TEL 080-1891218758



カリタスジャパン全国セミナー
 「コロナ禍と私たち一叫びの中からも見出す希望」

カリタスジャパンでは、オンライン形式で全国セミナーを実施します。コロナ禍における叫びに耳を傾け、現状を分かち合い、私たちに求められているものは何かを、ともに考えていく機会としていきたいと思っております。

第1部、第2部を通して、入退室自由です。皆様のご参加をお待ちしております。

11月3日(水・祝) 10:00-16:00オンライン(ZOOM)開催

・第1部 報告会「コロナ禍から見えてきた〈叫び〉」10:00-12:30

カリタスジャパン教区担当者等を通して、各管区からの発表

・第2部 討論会「〈叫び〉の中からも見出す希望」13:30-16:00

パネリスト：成井大介司教、飯島裕子さん、小林未希さん、
 ビスカルド篤子さん、吉羽弘明さん

◇参加申込方法

QRコードまたは <https://forms.gle/ZiCWyExv3rA9hPQv8> よりお申込みください。

または件名を【セミナー申込】としてinfo@caritas.jp宛にE-mailを送付ください。折り返し、申込URLをお送りします。

◇詳細等連絡先

E-mail: info@caritas.jp / 電話: 03-5632-4439 カリタスジャパン事務局



QRコード

神に感謝!
祝 司祭叙階50周年・25周年
おめでとうございませす

新潟教区では今年お二人の神父様が金銀祝を迎えられました。

金祝 眞壁良雄神父様(長岡教会主任) 司祭叙階日1971・9・24
 銀祝 伊藤幸史神父様(糸魚川教会主任) 司祭叙階日1996・9・24

このような大きな喜びを迎えています。今年も昨年同様、コロナ禍のため、信徒の皆さんと共に喜びを分かち合うことができませんでした。お祝いのミサは7月15日(木)、新潟教会にて成井司教様と13名の司祭共同司式で行われました。

お二人の神父様には、この記念の日を迎えられたことにあたり、心のあり様とか心に残る思い出とかをご寄稿いただきました。皆様と分かち合えれば幸いです。

「ムッシューはメアクルパね」

ヨハネ・ボスコ 眞壁 良雄

私が小さい頃体が弱く山形済生館に入院していました。病院側は待機している患者が大勢いますので、治療半ばでも無理やりに退院させられました。母親はぶつぶつ言いながら自宅に帰ってきたその夜、私の病室の隣の売店から出火した火災があり、死者が出たことを次の日聞かされました。母親は命が助かった感謝の意味を込め、初めてカトリック教会の門をたたき、その後母と子が洗礼を受けることになりました。

当時のフランス人神父様は私に「ムッシューは神父になりなさい」と何の意味か分からないまま侍者をさせられました。しかし私は一つに集中できず、そのうえ黙っていた。すると「ムッシューはメアクルパね」と言われながらも教会の中の雰囲気学校に来ている子どもの中で、女の

子にももての生意気な中学生が「僕神父になります」と大勢の中で手を挙げて宣言していた。

その時私は手を挙げなければよかったのだから、抗して「僕も神父になりなさい」と言っていました。するとフランス人の神父は「ムッシューは駄目! いたずらする罪深い人ね」と言われた。私は神父になりたいことを母親に話すと、一言「い



いじゃない!!でも父親は許さないと思うよ」そこで父親の一番の上機嫌は子どもの頭をバリカンで散髪をしている時なのでその時に言えばいいと思い「お父さん、僕この家から出たいのです」と言ってしまった。バリカンで頭を殴られ、目から火が出たことを思い出します。

司祭叙階50周年目を迎えた。ここまでこられたのも(旅) 囲りの人の支え、祈りがあつたからこそで、ただただ感謝のみです。ヨハネの手紙にあるように「私達が愛するのは神様がまず私達を愛してくださったからです」何とも言えない安心感があります。神様の方から召し出してくださっているのです。自分の置かれた立場を理解し、私をお使いください。と今日も祈っています。

「銀祝を迎えて」

十字架のヨハネ 伊藤 幸史

25年の司祭生活を振り返るとき、今まで実に多くの方々と出会わせていただき、その数々の出会いによって、今の自分が支えられていることを改めて思い起こします。そのすべてが尊くかけがえない出会いでした。しかし改めてその中の一つだけ挙げるとすれば、それはやはり私にとって、恩師井上洋治神父(東京教区)との出会いになるでしょう。

井上師には司祭叙階後のみならず、それ以前、大学1年の受洗時からお世話になり影響を受け続けてきました。大学浪人時代、自らの人生の意味を見失い迷っていた私は、遠藤周作氏の著作と出会い、それにのめり込みました。その中で遠藤氏の親友であった井上師のことを知り、受験で上京する機会を利用して直接会いに出かけ(私の出身は愛知県)、やがて大学入学後に師を通して受洗することになったのです。

当時、井上師は白柳大司教の許可を得てマンションの一室に居住し、「風の家」という新たな宣教活動を始めたところでした。「風の家」とは、日本の文化風土の中に福音を開花させること(インカルチュレーション)を目指し、若者を集めて始められた信仰運動体です。そこでは主日のミサ後、井上師を囲み、その著作を用いた勉強会が行われ、黙想会や懇親会、機関誌『風』の製本作業など、井上師と膝を突き合わせて話ができる多くの機会がありました。仲間には、現在批評家として活躍している糸魚川出身の若松英輔氏や個人的な人物が常に10名前後いて、彼らと語り合うことも楽しく、たくさん刺戟を受けたものです。私にとって真の大学は「風の家」だったと言っても過言ではありません。こうして「風の家」との関わりを続けていくうちに、いつしか私の心に司祭召命への思いが芽生え、大学卒業後そのまま教区神学校へ入学しました。こうして6年の養成期間を経て東京教区司祭として



叙階。その後、不思議な導きによって、今私は新潟教区司祭として銀祝のお恵みに与っています。かつて私は、叙階記念の御絵に「風は思いのままに吹く」というヨハネ福音書の聖句を選びました。改めて「聖なる風」の導きの神秘に驚かされる日々です。

ところで、かつて井上師が語った次のような言葉が忘れられません。「イエス様の福音は永遠で、決して消えたり無くなったりはしない。しかし地上の目に見える教会が、歴史はいくらでもある。日本の教会もこのまま行けば、そうなってしまうかもしれない」と。井上師は、日本の教会の将来に非常な危機感を抱いていました。霊性や知性の面ではとても師を受け継ぐ能力のない私ですが、この危機感だけはしっかりとバトンを受け継ぎ、今の自分にできる最善のことを祈りのうちに行っていきたいと思っています。新潟教区の皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします!

※写真は、司祭叙階翌日、「風の家」での初ミサにて。井上洋治神父と共に

